

## 作曲の射程を読みとる

1995年に書かれた三輪さんの本に、作曲についての記述がある。『「表現」する喜びではあるが、『何かを伝えるため』では決してない』(\*1)

同じことは2004年にも語られている。「伝えたいからつくるというわけではなくて、何かを形にしたいというすごく大きな衝動があるわけです(…)つくっている間というのは、人にどう聞こえるかというよりは、自分が聴くべきものをつくる(…)しかし伝えるということとはどういうことなのか?

少なくとも(…)こちらに情報があって、相手がゼロで、という状況でデータ通信するようなものを作家がつくっているとは到底思えない』(\*2)

ここには〈作曲(行為)は(言語的)情報を音楽に込めるものであり、音楽には何らかの情報が含まれる〉図式の否定がある。そしてこれは2008年の〈現代音楽では「作家の思想を媒介するメディアなのだ」という暗黙の了解〉があり「思弁の音響化」が信仰されている〉(\*3)という批評へ繋がっていく。

それでは作曲は思弁の音響化でなく、何をしているのか……以下は繰り返し語られている“作曲できなかった”エピソード群である。

初学にあっては「いかなる根拠で「音を選べば」いいのか途方に暮れ」(\*5)、諸理論を覚えても「頭に浮かんだ音符を3つ、五線紙に書いた途端「この組み合わせは既にだれかが手掛けている」と」(\*6)「自己批判し、劣等感に襲われる」(\*7)。「バッハの呪い(笑)かと思えるほど、五線譜を使うこと自体が二百年のヨーロッパの重荷を背負うようなことになっていた。そういう意味で、コンピュータを用いることはそれから解放されるということ」(\*8)

なるほど1音も書けない状況の打開策として〈コンピュータによる演算/アルゴリズムによる音の決定〉を採用すると〈音符にアルゴリズムの結果という性質が加わる〉。こうして〈思想を媒介する〉余地はますます後退していくように思われる一方、引き続き〈この手法で音楽は正当性を獲得できるのか〉という(変形された)課題が残るのではないか。そして正当性の担い手として見出されたのが《極東の架空の島の唄》に始まる仮構の領域だったのではないだろうか。

ちょうど方法主義の活動時期に「(音楽構造は)楽譜さえあれば本当に定義可能なものなのか」(\*9)を疑う過程がある。〈架空の由来〉に代表される実践は、そのとおり音楽の〈楽譜ではない成立要件〉として逆シミュレーション音楽の【命名】に結実した。バッハの対位法作品が〈設計図としての高度な抽象性によって完成している〉(\*10)のとは異なる評価軸を獲得したことになる。

こうして西洋音楽が唯一の正統ではない可能性がひらけるにつれ〈ありえたかもしれない音楽〉もまた可能な事態のひとつとして成立し得ることになる(逆も然り)。そしてこの状況の前提として要請されたものこそ他ならぬ「論理的宇宙」(\*11)だろう。古今の西洋や非西洋の音楽に加え、逆シミュレーション音楽をも取り巻く世界観(すべての事態を包含する論理空間)としての「論理的宇宙」は、作曲におけるコンピュータ(アルゴリズム)の採用から直に連なる最大の帰結である。

- \*1 …… 『コンピュータ・エイジの音楽理論』（ジャストシステム、1995） p.64
- \*2 …… 『西村朗対話集 作曲家がゆく』（春秋社、2007） p.56
- \*3 …… 「虹機械」初演に寄せて <https://www.kozui.net/nijikikai-note.htm>  
『三輪眞弘音楽藝術』（アルテスパブリッシング、2010） p.232
- \*4 …… 「虹機械」初演に寄せて <https://www.kozui.net/nijikikai-note.htm>  
『三輪眞弘音楽藝術』（アルテスパブリッシング、2010） p.232
- \*5 …… 『コンピュータ・エイジの作曲理論』（ジャストシステム、1995） p.169
- \*6 …… ザ・フェニックスホール インタビュー <https://phoenixhall.jp/interview/2005/02/01/719/>
- \*7 …… 私とドイツとNRW（前編） <https://www.derdiedas.jp/2017/11/21/私とドイツとnrw（前編）-崖っぷちから始まった作/>
- \*8 …… 『現代音楽家シリーズ記録集』（愛知芸術文化センター、1999） p.47
- \*9 …… 文明を合成する 機関誌「方法」第14号  
[https://www.aloalo.co.jp/nakazawa/method/method014\\_j.html](https://www.aloalo.co.jp/nakazawa/method/method014_j.html)
- \*10 …… 設計図としての音楽 ユリイカ1996年1月号 pp.100-10
- \*11 …… 「虹機械」初演に寄せて <https://www.kozui.net/nijikikai-note.htm>  
『三輪眞弘音楽藝術』（アルテスパブリッシング、2010） p.233

園羽山園 はやま（方法マシン/蛍光資料/アーカイブ制作）